

“楽しい”スマホよろずサロン づくりのポイント

スマホの話題
じゃなくてもいい。
“雑談”を楽しめる
場にしよう!

苦手なことや難しいと思うものは誰でもなかなか覚えられません。でも、楽しかったことは記憶に残ります。スマホの使い方だって、みんなでおしゃべりしていたら不思議と覚えてしまうのがこのサロン。次の3つのポイントがあれば自然と雑談が生まれ、仲良くなるものです。



雑談の中に
地域力が高まる
「お宝」が
埋まっています!

ポイント 1

教える人は誰でもいい

先生と生徒が安心してやり取りできることが大切。先生役に求められるのは技術や知識だけではなく、「楽しい」「できるかも」とその気にさせるコミュニケーション力です。

スマホはどうか使えるぐらいのシニア女子と知識豊富なのに普段黙っているおじさま。その気にさせるおしゃべり上手な人と技術的なことを教える人がペアになればまさに最強。いろんな世代が触れ合えば、もっと最高!

シニアと学生がコンビになれば、互いに嬉しい気持ちと学びや発見が!



ポイント 2

1度きりで終わらせないで何回も

苦手なスマホ、1回で覚えられないことがあっても当然。覚えられないと気弱にならず、覚えられまで何回も何度でも来て聞き直せる場にしましょう。気軽に聞けるともっと知りたいことができ、ずっと通う場になります。

できるだけ近場で同じ会場に何度でも通うことが、お互い顔見知りになるコツ。仲良くなると、聞き直したり、会話もしやすくなります。

何度でも聞き直せる雰囲気、自然と雑談を生む



ポイント 3

一方的な教えにしない

教える・教わるの一方通行な関係ではなくお互いに「教え合う」気軽な関係をつくりましょう。

先生が「あれ?どうやるんだっけ?」と言ったら、生徒が「こうじゃなかった?」と補完し合ってやる方が成果が出ます。気軽な教え合いから生まれるコミュニケーションが参加者の理解とつながりを深め、おしゃべりしやすい雰囲気を生みます。時々生徒、時々先生、そんなやわらかい関係に!

生徒だったシニアが先生役をしてもいい先生役がわからないことは周囲でサポート



場の盛り上がりとともに、いろんな雑談が飛び交うようになります。

そのちょっとした雑談の中には、地域が活性化する貴重なつばきのお宝が隠れているものです。

聞き逃さずに、うさぎの耳で!

